

## 一般シンポジウム S57

## 6年制薬学教育の現状調査結果から見た実務実習の課題と改善に向けて

**Issues of the Pharmacy Practice in the Current 6-Year Pharmacy Education and the Problem-Solving Approaches towards the Revised Model Core Curriculum**望月 正隆<sup>1,2</sup>, 須田 晃治<sup>2</sup><sup>1</sup>東京理大薬, <sup>2</sup>薬学教育協議会

現行実務実習を評価し、問題点・課題を明らかにするために、2013年に医療提供施設に3種類のアンケート調査（対象：医療提供施設に勤務する6年制薬学卒業の薬剤師とその施設の部門長、認定実務実習指導薬剤師）、大学に対して2種類のアンケート調査（対象：大学の学部長・教務部長と臨床系・実務家教員）を行った。また、2014年には、2019年から始まる改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習（以下、改訂実務実習）に向けての準備状況をアンケート調査するとともに、アドバンストワークショップを開催して課題への対応策を関係者で協議した。本シンポジウムでは、これらの活動結果に基づき、現行実務実習の問題点・課題を明らかにするとともに、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の円滑な実施に向けて、改善と対応のロードマップを提示し、共有することを目指す。

シンポジウム

## S57-1 アンケート調査に基づく現行実務実習の評価と課題

○伊東 明彦<sup>1</sup><sup>1</sup>明治薬大

平成25年度、薬学教育協議会は文部科学省委託事業として病院・薬局実務実習を含めた6年制薬学教育が当初の目的を達成しているか検証・評価して問題点を洗い出すとともに、改善に向けて広く意見を収集することを目的にアンケート調査を実施した。6年制課程卒業後、医療提供施設に勤務する薬剤師とその部門長、認定実務実習指導薬剤師、さらに大学の学部長・教務部長および臨床系・実務家教員を調査対象として、病院855施設、薬局693施設、74大学に依頼した。回答は6年制課程卒業薬剤師800名、部門長666名、認定実務実習指導薬剤師700名、69大学から得られた。解析結果からみられた大学での事前学習のあり方、指導に関わる薬剤師の指導能力や指導状況、施設間の実習内容の相違、施設の負担度の大きさ、大学と実習施設との連携のあり方、6年制課程卒業薬剤師の資質などの病院・薬局実務実習の現状と課題を紹介する。

## S57-2 改訂モデル・コアカリキュラムの目指す実務実習の概要

○鈴木 匡<sup>1</sup>

<sup>1</sup>名市大院薬

2013年に改訂された薬学教育モデル・コアカリキュラムでは、学習成果基盤型教育が提示され、薬剤師として求められる基本的な資質を最終的な成果として6年間の教育を行うこととなった。薬剤師教育として最も変更があったのは薬学臨床である。薬学臨床は6年間の一貫した薬学教育の中に位置づけられ、実務実習は大学－病院－薬局をまとめた形で学習目標が示された。

この改訂を受け「薬学実務実習に関する連絡会議」が設置され、2019年から実施される新しいモデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習のあり方の検討を開始した。提示されたガイドライン(案)では、大学は、学生が医療現場ですぐに対応ができるような能力の修得を担保すること、大学が主導して実習施設との連携体制を整備する必要性等が提示された。実習施設には、実習施設全体で責任を持って実務実習に対応すること、学生が広く「代表的な疾患」の患者や症例を体験できるような実習を行うことなどが提言され、効果的に22週間の実習を行うために、病院－薬局での連続した実習が必要であることが提案された。また、学生の到達度を適確に評価する新しい評価方法の必要性や、大学、教員、実習施設、指導薬剤師の評価の実施と改善のサイクルについても言及している。ガイドライン(案)に従った実務実習の改善は、多くの課題を抱えているが、新しい時代の薬剤師を養成するために必須のものである。

## S57-3 プレアンケートに基づく改訂実務実習に向けての大学・施設の準備状況

○戸田 潤<sup>1</sup>

<sup>1</sup>昭和薬大

2019年から開始となる改訂モデル・コアカリキュラムでの実務実習を円滑に始められようすることが薬学関係者の課題となっている。薬学教育協議会では、大学における薬学準備教育と実務実習施設(病院・薬局)での実習のあり方についての現状を把握するために、薬系大学、および病院・薬局を対象にアンケート調査を実施した。シンポジウムではその結果を報告し、それを基に新しいコア・カリキュラム下での実務実習のために「何を準備しなくてはならないか」を討論する。

## S57-4 改訂実務実習の円滑な実施に向けて—改善と対応のロードマップ

○平田 收正<sup>1</sup>

<sup>1</sup>阪大院薬

薬学教育モデル・コアカリキュラムは平成 25 年末に改訂され、それを受けて平成 27 年度から本カリキュラムに準拠した 6 年制薬学教育が開始される。薬学教育協議会・薬学教育調査・研究評価委員会では、平成 25 年度及び 26 年度に文部科学省「大学における医療人養成推進等委託事業」を受けて、6 年制薬学教育の現状調査とその結果に基づく実務実習の課題と改善に向けた取り組みを行って来た。その一環として、平成 26 年 11 月に全国の薬系大学と日本病院薬剤師会、日本薬剤師会から 100 名近い参加者を得て、平成 31 年度から開始される改訂カリキュラムに沿った実務実習の在り方をテーマとして、「実務実習教育改善のための全国ワークショップ 2014」を開催した。本ワークショップでは、上記の調査結果や六者懇・薬学実務実習に関する連絡会議が作成した「薬学実務実習に関するガイドライン（案）」をもとに、大学と実習施設、大学間、施設間の連携、さらには調整機構を中心とする地区単位での実務実習の推進について、当該実務実習を実施する上での現状及び今後の課題の抽出と、その対応策の提言、さらに課題解決に向けたロードマップの作成を行った。

本講演における本事業の紹介が、教育効果の高い実務実習の実現に向けた大学、実習施設さらに地域における新たな議論の契機となることを期待したい。